

棚尾地区まちづくり事業

平成 27 年 3 月 19 日（木）19 時～

棚尾公民館 3 階

第 4 5 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

1 前回までのテーマに関する参考意見など

春日社、おはま平七郎物語、新田の開発、長富公園など

2 テーマ 72 「棚小校庭の造営物」

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 テーマ 73 「棚尾の橋」

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

4 連絡事項・情報交換など

4 月 3 日（金）10 時～「第 9 回史跡めぐり」

テーマ：棚尾小学校から堀川をめぐる

集合：棚尾公民館

5 次回日程

第 46 回歴史を語る会 4 月 23 日（木曜日）午後 7 時から 「昔の地名」「酒造り」

第 1 回棚尾物語製作部会 5 月 日時は次回に報告

第 47 回歴史を語る会 6 月 日時は次回に報告 「棚尾言葉」

「棚小校庭の造営物」

1 要旨

棚尾小学校の校庭には、地区の人から寄せられた多くの造営物がある。石川治郎、いま夫妻が寄贈された二宮金次郎像は建設時銅像であったが、金属供出時に石像に置き換えられた。台座は当初のままである。体育館東の校歌碑は、石川鑄造(株)の兄弟姉妹8人が揃って合計500歳を迎えたことに感謝して母校へ贈られたものである。

2 創立100周年記念像

昭和48年(1973)に棚尾小学校創立100周年記念事業が実施された。実行委員会役員は次の方である。

会長

平岩慶一

副会長

斎藤良二 永坂勇 中根仙吉(学校長)

会計

小笠原一雄 三島行雄

監事

小笠原義男 金子敏昭

総務

杉浦敏一、平岩安治、斎藤倉吉、小沢常幸、長田馨、榊原利男、小笠原規吉、石川梅吉、永坂丞平、梶川正直、石川広、竹田一男、永井治策、池田義男、外山秋太郎、古久根勇蔵、栗津良一、石川鉄三、小笠原三郎、永井一、奥田芳幸、岡村潔、坂部勇、小沢正夫、長田博

実行委員

大島奥市、杉浦清二郎、伊比栄松、成瀬武夫、鳥居源一、中根馥、長田正一、斎藤乙彦、小笠原政雄、小笠原啓輔、石川実、名倉秀幸、千賀松雄、杉浦重信、岩間順一、池田利雄、斎藤実太郎、黒田健太郎、長田兵一、石橋進、古久根与美男、生田豊治、石川嗣彦、杉浦信之、古久根徹、永坂武夫、金原正雄、安藤克夫、村

上良三、小塚一雄、小笠原三雄、榊原孝、磯貝フクエ、名倉しづゑ

記念像の製作

体育館の東に児童像が建立され、台座の三面には校訓の、ただしく、つよく、たすけあう が埋め込まれている。

記念事業実行委員会 昭和 49 年 3 月 3 日建立 題字 学校長 中根仙吉
製作 日展作家 加藤潮光

3 藤井達吉歌碑

建立年月日 昭和 50 年 3 月

建立者 中根仙吉

まなびにし 学校あとの 老松の木よ

われをしるらむ おさなきわれを 達吉

詳細は第 39 回例会 テーマ 64 「達吉の歌碑」 参照。

4 校歌碑

(1) 校歌の制定

与田準一 作詞

平井康三郎 作曲 昭和 31 年 11 月 3 日制定

一	二	三
名も碧南の空青く	名も碧南の日は若く	名も碧南の砂白く
さやかにそそぐ矢作川	ゆたかにのびる生産地	衣が浦の波しずか
希望の朝を呼びかわし	波うつ丘に潮の香に	あかるい星に肩を組み
集いてここに学ぶもの	きたえて明日をちかうもの	平和の行く手目ざすもの
棚尾われら	棚尾われら	棚尾われら
棚尾われら	棚尾われら	棚尾われら
棚尾小学校	棚尾小学校	棚尾小学校

(2) 校歌碑の建立

体育館東に校歌碑がある。これは石川鑄造(株)の兄弟姉妹 8 人が揃って合計 500 歳を迎えたことに感謝して母校へ贈られたものであり、みかげ石の表面に校歌が刻ま

れ、裏面に次のように記されている。

石川兄弟五百歳記念

金三 71 歳 銀三 66 歳 鉄三 64 歳 鍼平 61 歳 鉦平 57 歳
房江 72 歳) ナミ子 59 歳 フクエ 55 歳

昭和 63 年 6 月 4 日

中根仙吉書

石匠 ㈱永田石材問屋

(3) 昭和 63 年 6 月 5 日の中日新聞記事

兄弟 8 人で 500 歳突破

母校・棚尾小に校歌碑

碧南の石川さんら贈る

碧南市内に住む 8 人兄弟姉妹の合計年齢 500 歳突破を記念し、4 日、母校の棚尾小学校（片山丈吉校長、児童九百人）で、寄贈した校歌碑の除幕式とグランドピアノ開きが行われた。男 5 人、女 3 人で、71 歳から 55 歳の 8 人は、児童らの歌う校歌を感慨深く聞き、さらに記録更新に張り切っている。

この兄弟姉妹は、長男の石川金三さん（71）＝大浜上町、二男銀三さん（66）＝同、三男鉄三さん（64）＝中松町、四男鍼平さん（61）＝塩浜町、五男鉦平さん（57）＝弥生町、長女磯貝房江さん（72）＝善明町、二女山本ナミ子さん（59）＝山神町、三女磯貝フクエさん（55）＝善明町。

年齢合わせて 505 歳。8 人の中で亡くなった者がいないのが自慢。一族は子供 30 人、孫 61 人に達している。金三さん、銀三さん、鉄三さんの 3 人が経営の中心になっている石川鑄造の創業五十周年にあたることもあり、今回の寄贈になった。

除幕式は、午前 10 時から校舎正門玄関西側の庭園に建てられた校歌碑（南アフリカ産みかげ石製、高さ 90 ㎝、横 1.9 ｍ）前で行われ、8 人の兄弟や同校 6 年生 155 人らが出席。金三さんが代表して「おかげで、兄弟で五百五歳になりました。皆さんも社会に役立つ人になって下さい。」と励ました。

5 二宮金次郎像

校庭の北東隅に石像の二宮金次郎像がある。

(1) 寄贈

昭和 6 年 11 月に大連市の石川治郎・いま夫妻から銅像の二宮金次郎像が寄贈され

た。石川いさんは若宮町1丁目出身で大連市で菓子店みなとやを経営されていた。

昭和6年12月22日の棚尾町協議会記録

当小学校校庭ニ二宮金次郎銅像寄付採納ノ件 採納スルコトヲ決定

二宮尊徳先生幼時ノ銅像（基礎工事共）1基 523円 児童教化ノ為当町尋常高等
小学校へ寄附

大連市常盤橋詰在住 みなと屋こと 石川治郎・いま夫妻

又、台座の銅板には次のように表記されている。

「二宮尊徳先生幼時之像 喜徳書」

「昭和6年11月 寄贈者 大連市 石川治郎

石川いま」

(2) 金属供出

昭和17年に金属供出の為、石像に造り替えられた。但し、台座は当時のままである。

材 質	銅像の竣工	石像へ造り替え	造り替え理由
銅像から石像に造替 御影石 土台人造石	昭和6年11月	昭和17年12月 18日	金属供出の為

6 奉安殿

(1) 記念石柱

現在、防災コンテナの隣に奉安殿があったことを示す石柱が建っていて、次のように記されている。

「奉安殿 壱棟 名古屋市西区西柳町 小笠原十太郎 昭和9年2月1日」

(2) 奉安殿の経緯

棚尾小学校100年史から抜粋

ア 学校には、教育勅語の謄本とともに天皇陛下の御真影があった。棚尾小学校には、第1校舎正面玄関横（入って右の部屋）に奉安庫があった。大正5年10月棚尾小学校へ下賜される御真影の奉迎は大行事であった。

イ 昭和8年2月2日不慮の火災にて第1校舎全焼。幸いに御真影、勅語謄本は宿直当番岩月信蔵により無事郷社八柱神社に奉遷せられ、後、役場に奉遷す。

ウ 昭和9年2月1日に改築工事完成。同時に屋外に「奉安殿」もできあがった。

竣功式に関する記録 棚尾町協議会

竣功式：昭和9年2月1日 9時～10時

弁当 1160個 内訳：角徳386個、角吉387個、大半天387個

奉安殿へ矢作川ヨリ砂ヲ各戸3 荷宛学校運動場へ搬入スルコト

エ 戦後教育の切り換えにより取壊し

棚尾町協議会 21, 1, 18 議決

取壊し 昭和21年8月末日まで 金4,000円

オ 跡地に記念石柱建立

(3) 奉安殿寄付に関する記録

昭和8年10月6日棚尾町議会可決

1,500円 御真影奉安の為、棚尾尋常小学校へ

昭和9年6月15日

名古屋市西区西柳町 小笠原十太郎

工事 石川驥一（土金）

仕様書

鉄筋コンクリート造1棟、但し切妻造り 屋根銅板葺き 入り口金庫扉

桁行 8尺 梁7尺 建坪1坪5合5勺 軒高17尺2寸 棟高20尺

玉垣 内玉垣 8尺7寸 角高2尺4寸

外玉垣 8寸角の高さ2尺4寸 鉄鎖付きとする

7 楠正成銅像

奉安殿に隣接して、銅製の楠正成像があった。寄贈されたのは当時、若宮町2丁目の金原元治氏で、昭和15年に竣工した。この年には紀元2600年祝賀会が盛大に行われた年である。

しかし、2年後の昭和17年に金属供出で取り除かれた。

国への金属供出に関する記録

材質	形態	寄付者	竣工	取除き理由	取除日
銅像	楠公乗馬	棚尾町出身	昭和15年	金属供出の為	昭和17年10
土台石材		金原元治	7月		月30日

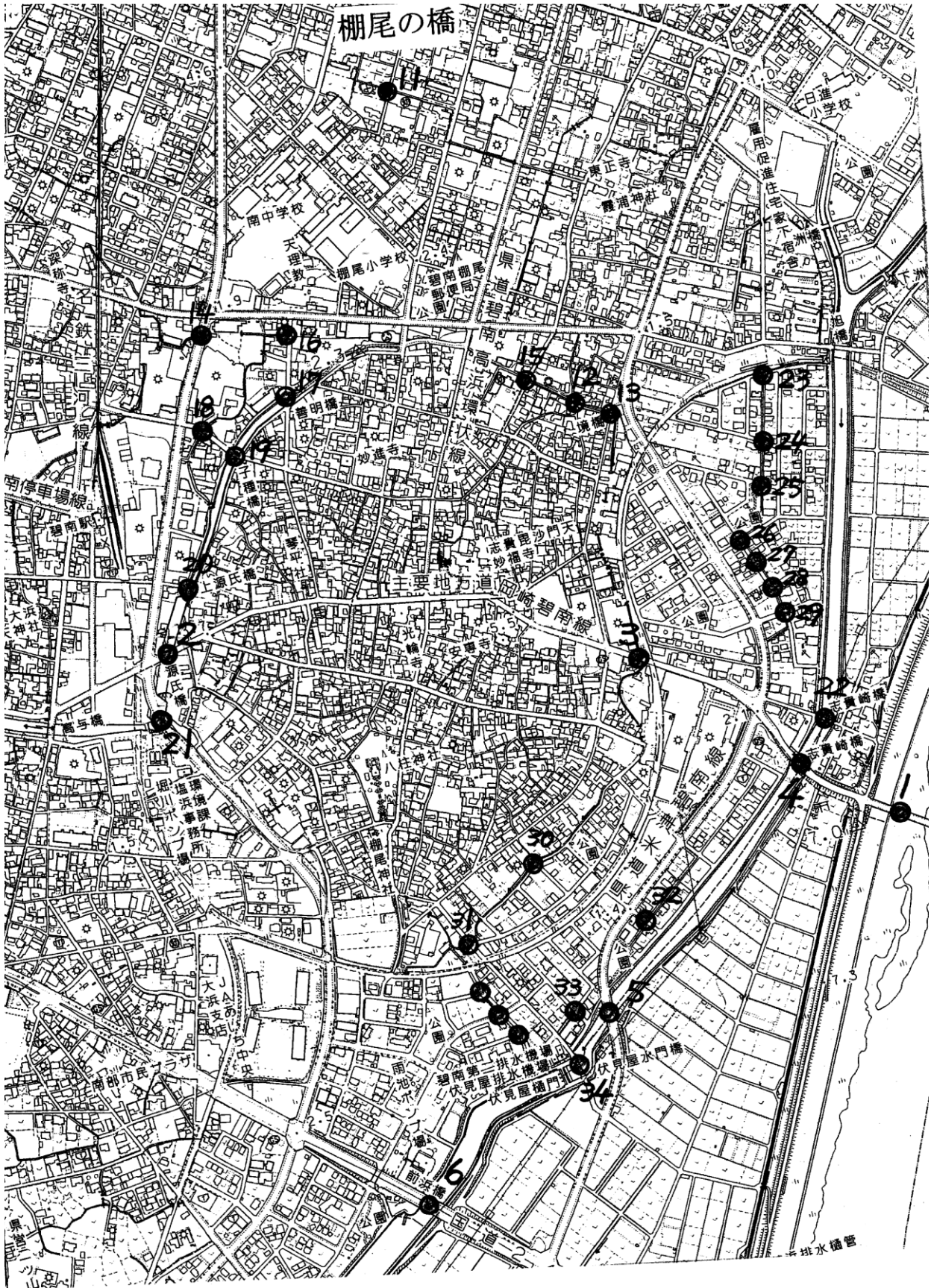
「棚尾の橋」

1 要旨

棚尾の町は、高台の周りを川が取り囲む地形であるため、沢山の橋があり水辺が多く心がなごむ。大浜との境界の橋は昔、棚尾橋と呼んでいたが、矢作川に棚尾橋が新設されてからは源氏橋と名前が変わった。中江の蜷川に架かる志貴崎橋は、当時の字名が堀切下と亀ヶ下であったので掘亀橋と名付けられ、光輪寺に記念碑がある。

2 現在の国・県道に架かる橋

図面 番号	橋名	構造	供用年次	橋長	総幅員	備考
1	棚尾橋	単純合成鋼箱 桁	昭和 42 年	441.7m	10.5m	4代目
2	源氏橋	単純非合成鉄 桁 RC単純床版 橋	昭和 32 年 側道橋 昭和 51 年	20.1m	7.0m	側道橋上 流幅員 1.5m 下流 幅員 2.0m
3	伏見屋橋	RC単純床版 橋	昭和 34 年	3.8m	8.4m	昔、東川橋
4	志貴崎橋	RC単純T桁	昭和 35 年	33.9m	8.5m	側道橋幅 員 2.5m
5	蜷川橋	PC単純プレ テンT桁	平成元年 度	46.5m	16.0m	
6	前浜橋	PC単純プレ テンT桁	下り 平成元年 上り	99.6m	11.0m ×2	



3 現在の市道に架かる橋

図面 番号	橋名	構造	建設年次	橋長 (m)	総幅員 (m)	備考
11	栗山橋	ラーメン橋		2.3m	5.1m	
12	平七3号橋	床版橋		2.9m	6.6m	
13	境橋	床版橋		3.6m	3.7m	
14	汐田橋	床版橋		3.2m	17.7m	
15	汐田2号橋	床版橋		2.5m	5.5m	棚尾東橋
16	汐田3号橋	床版橋		3.4m	6.4m	
17	善明橋	床版橋	昭和38年	16.3m	6.7m	
18	源氏橋(市道)	床版橋		3.0m	7.6m	
19	子種橋	I桁橋	昭和42年	12.5m	7.1m	
20	上源氏橋	T桁橋		9.2m	2.0m	
21	塩とり橋	PC単純ポ ステンT桁	平成20年	43.9	18.0m	
22	志貴崎橋	I桁橋	昭和43年	29.3m	4.5m	
23	志貴崎2号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.4m	3.3m	区画整理
24	志貴崎3号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.5m	6.4m	区画整理
25	志貴崎4号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.8m	5.3m	区画整理
26	志貴崎5号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.7m	7.3m	区画整理
27	志貴崎6号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.7m	9.0m	区画整理
28	志貴崎7号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.7m	7.2m	区画整理
29	志貴崎8号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.7m	8.2m	区画整理
30	若宮橋	ラーメン橋	昭和58年	2.6m	3.5m	区画整理
31	若宮2号橋	ラーメン橋	昭和58年	2.3m	7.9m	区画整理
32	川端橋	ラーメン橋	昭和58年	3.9m	5.4m	区画整理
33	川端2号橋	ラーメン橋	昭和58年	4.1m	6.3m	区画整理
34	伏見屋水門橋	I桁橋	昭和55年	30.8m	6.1m	県施工
35	田ノ崎橋	ラーメン橋		6.5m	6.0m	
36	雨池橋	床版橋	平成6年	4.8m	6.1m	区画整理

37	無名橋	ラーメン橋	平成6年	2.3m	4.0m	区画整理
38	無名橋	ラーメン橋	平成6年	2.3m	4.0m	区画整理
39	無名橋	ラーメン橋	平成6年	2.3m	5.0m	区画整理
40	無名橋	ラーメン橋	平成6年	2.2m	5.0m	区画整理
41	無名橋	ラーメン橋	平成6年	4.0m	4.4m	区画整理
42	江添橋	床版橋	昭和48年			区画整理

4 廃止された橋

図面 番号	橋名	構造	建設年次	橋長	総幅員	廃止年度
101	作塚橋	床版橋		4.5m	8.3m	平成23年
102	栗山2号橋	床版橋		3.2m	6.1m	平成7年
103	春日橋	床版橋		5.2m	8.8m	平成11年
104	春日2号橋	床版橋		2.7m	3.7m	
105	弥生橋	床版橋		2.3m	2.6m	平成20年
106	小西橋	床版橋		11.7m	5.0m	平成20年
107	江川橋	箱桁橋	昭和11年	10.1m	3.6m	平成元年
108	棚尾本橋	床版橋		2.8m	5.8m	平成23年
109	雨池2号橋	床版橋		3.8m	3.4m	平成元年

5 江戸時代の記録である明細帳に載っている橋

明細帳のある年

寛保2年(1742)、宝暦3年(1753)、宝暦12年(1762)、明和7年(1770)、
天保12年(1841)

- (1) 大間 大浜村・棚尾村・平七村割合村入用、板橋、
長2間×横1間 ～ 長2間半×横5尺 年代によって異なる
- (2) 小嶋(作塚) 大浜村・棚尾村割合村入用、板橋(土橋の時もあった)
長2間×横1間 ～ 長2間半×横5尺
- (3) 乗越 大浜村・棚尾村割合村入用、板橋(石橋)
長2間×横1間 ～ 長1間×横3尺2寸

- (4) 小栗山 土橋、長 2 間×横 1 間 ～ 長 2 間半×横 5 尺
- (5) 棚尾橋 棚尾村大浜村境、板橋
長 5 間×横 8 尺 ～ 長 6 間×横 7 尺
橋杭 4 組。但し 1 組ニ 3 本宛
- (6) 山ノ折戸 土橋、長 2 間×横 1 間
- (7) 山ノ折戸 土橋、長 2 間×横 1 間
- (8) 堀切 土橋、長 2 間×横 1 間
- (9) 北折戸 平七村・棚尾村割合村入用、土橋
長 2 間×横 1 間
- (10) 亀ヶ下 土橋、長 2 間×横 1 間
- (11) 新井道 土橋、長 2 間×横 1 間

6 明治時代以降の橋に関する記録

(1) 堀亀橋

ア 経緯

堀亀橋は八村川（現在の蜷川）に架かる市道の志貴崎橋の旧名である。この位置の旧字名が堀切下及び亀ヶ下であったので頭文字を取りこの橋名が付けられた。橋が傷んできたので棚尾村の有志によって明治 19 年（1886）に架け替えられた。

当時矢作川に橋はなく、西尾への往来は渡し舟によっていたが、同じ人達によって初代棚尾橋が明治 23 年（1890）に架けられている。

イ 碑文

この架橋碑が光輪寺境内にあり、次のとおりである。

（表面頭部横書き） 堀亀橋 記念碑

（表面）

むらのひがしに八村川といへる河あり橋いたく朽ち庄三渡
にいたるミちまたあしくて行人いとふやみけるに明治十九
年四月通路のますくに弍拾余間のよきはし架け渡し
名を堀亀橋といふ其東ミちなけれハ土地求め六拾
余間の道つくり地租納めつつ民世乃ために供へられぬ
そを便りてくるま馬などやすやすと行き来の人乃
よろこびなとたとへんこれなむ小笠原六右衛門永井

長三郎石川忠四郎齋藤長七石川宗七たち有志人
人のたまとの知利茂となさけある美挙といふへし明治
二十七年の冬里道成りてみち編入されはし亦あらためて今
志貴崎橋と称するものこれなり後のためとせよとの
ことに身のほとも忘れかくになむ
世のために つくすまことや 匂ふらむ
いく萬代も 名残とどめつつ
明治三十一年十二月 解脱山僧晃敬識
小笠原竹次郎刻

ウ 架橋碑の移動経緯

このように、碑文は光輪寺住職の高木晃敬が書き、建設経緯を記すと共に恩人へ感謝の気持ちを伝えている。この記念碑は、棚尾の中心の光輪寺交差点に、棚尾橋架橋碑と同じ年の明治31年(1898)に建てられている。従って、この堀亀橋の架け替えが先行しているが棚尾橋と一体で整備され、住民の長年の宿願が叶い喜ぶ様子が伝わってくる。

碑はその後、道路拡幅により支障となったため、光輪寺境内へ移動し、さらに同寺の奥庭へ移った。

(2) 棚尾橋

初代架橋 明治23年(1890)

2代架橋 大正10年(1921)

3代架橋 昭和30年(1955)

4代架橋 昭和42年(1967)

詳細は、第4回例会 テーマ7「棚尾橋」を参照。

(3) 源氏橋(旧棚尾橋)

ア 明治13年棚尾村村誌

字源氏、江川ニアリ、長6間1尺×巾1間1尺、木製、修繕費用官ニ属ス

管理：棚尾橋組合 棚尾村9分、大浜村1分

イ 架橋の記録

明治24年の濃尾地震による臨時橋梁架設 明治25年

大きさ：長さ6間3尺 幅7尺 板橋

明治28年架替

大きさ：長さ 8 間 幅 2 間 板橋

明治 37 年架替

(4) 二つ橋

管理：旭村外二ヶ町村橋梁組合 旭村 8 分、棚尾村 1 分、大浜町 1 分

(5) 子種橋

名称が次のように何度も変遷している。「小種橋」、「小谷橋」、「小種ヶ橋」

(6) 乗越橋

明治 32 年の本村沿革記録に次のように載っている。

所在：字春日東

現状：石橋ヲ架ス

雑項：往昔海潮盈溢スルヲ乗越橋ト云ヘリ、其説古老口碑ニ依レリ